

# 杏林

KYORIN DAIGAKU SHIMBUN

## 大学新聞

- 1面 コロナ禍元年の学生 社会に巣立つ  
2023年度就職活動
- 2面 卒業生に聞く  
大学時代に学んだこと これからのこと
- 3面 医学部付属杉並病院開院に寄せて
- 4面 リレーエッセイ(4)  
ChatGPTとAI 坪下幸寛教授  
健康ひとくちメモ(31)  
薬物乱用の怖さ 徳永健吾教授

# コロナ禍元年の学生 社会に巣立つ

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が日本で蔓延し始めたのは2020年の春です。この年は入学式が中止、授業の大半がオンライン、部活動は全て休止という誰も経験したことのない未曾有の非常事態となりました。その年の新入生たちは、大学生活の夢が端から断たれ、憧れていたキャンパスライフを思うようにエンジョイできなかった学生もいたでしょう。そうした学生たちが今春、本学を卒業しました。彼らの大学生活はどんなものだったのか、どんな思いで母校を卒業したのか、そしてどんな進路を選んで社会に羽ばたいて行ったのか。今号はこの春の卒業生にスポットをあてて紙面を構成しました。



自ら選んだ道を歩み始めた卒業生たち

## 2023年度就職活動 ～ 高まった就職率 広がった就職先

本学でこの春に向けて就職を希望した学生は3学部で986人。このうち就職を決めたのは98.7%でした。この数字は過去20年で最も高いものです。また、就職“率”だけでなく、東証プライムをはじめ上場企業への就職者も100人を超えました。学生たちの就職指導・支援にあたってきたキャリアサポートセンターの真野靖久センター長に2023年度就職活動を総括してもらいました。



真野靖久(まのやすひさ) 日本航空株式会社で25年にわたり勤務。空港および客室の現業サービス業務、人事・労務関連業務を担当。その後、京都外国語大学、拓殖大学でキャリア支援業務を行う。2017年、杏林大学着任。外国語学部教授。修士(経営学)

### 企業の採用活動が早期化

採用直結型インターンシップが解禁されることになったことで、企業の採用活動時期が早まる傾向が加速したように感じます。加えて、コロナ禍が明け、ホテルや旅行、航空など観光産業を筆頭に求人が一気に増えたことなどが就職率を押し上げることに繋がりました。

また、コロナ禍でソーシャルディスタンスが求められ、政府からもテレワークが推奨されたことでIT関連産業が大きく伸びた結果、そちらへの就職者も増えている印象です。大卒の求人倍率はコロナ禍に入る前年の2020年3月卒の1.83には及びませんでした。1.71まで回復した中での就活戦線でした。

### オンラインと対面が混在

コロナ禍で一気に普及したオンラインでの採用面接なども一定程度は残りましたが、やはり対面形式での実施が増えてきたように思います。オンラインでの実施は学生にとっては時間とお金の節約になりますし、企業側も人手が抑制できるなど効率化に繋がったと思います。

学生側も企業側も画面越しでは得られない臨場感や雰囲気など直接顔を合わせなければ分からないこともあり、2次、3次と進む中で相対的に対面が増えていったように思います。

### 接する企業はなるべく多く

オンラインと対面では一長一短があって併用されると考えられますので、これからは双方での準備が標準的になると考えます。オンラインでの面接に備え、部屋やライトなど“見え方”を良くする施設の確保は常に必要となります。それから、オンラインなら効率よく会社と接することができるので、興味のある・なしに関わらず、なるべく多くの企業と接することを心がけてください。

就活の基本は、ターゲットにしたい会社や業界があっても、そこだけに拘らず、視野を広げて話を聞いてみるということです。知ったら興味を持つこともある、人生とは思わぬ偶然で変わることもあるからです。

■卒業生の就職率(5/1現在、医学部除く)

	2024年3月卒業生
保健学部	98.4%
総合政策学部	98.1%
外国語学部	100.0%
合計	98.7%

## 卒業生に聞く 大学時代に学んだこと これからのこと

### 経験が自信に。限界を決めず挑戦を！



穴戸 カンナ (ししど かなな)

2024年3月 医学部医学科卒業。4月から青森県八戸市立市民病院で研修医として働く

医師の家庭に育ち、幼いころから本棚にあった医学書を読んだり、家族の会話から命の大切さを身近に感じたりしていた穴戸さん。高校3年生の時に、医師という職業のやりがいと心を惹かれ、医学部受験を決めました。

在学中は勉強に励みながら、端艇部で活動し、学会発表にも挑戦。学生時代の多様な経験を糧に、患者さんに寄り添い、患者さんに信頼される医師を目指します。

#### 学会発表の貴重な経験

大学の勉強だけでなく、学術研究に興味を持っていた5年生の時、同級生が日本内科学会の「医学生・研修医のことはじめ2023」にチャレンジすることを知りました。穴戸さんはすぐに友人に声をかけて消化器内科の教室を訪ね、参加の意向を伝えました。

選んだテーマは「上部消化管内視鏡所見を契機に診断された胃癌の一例」。地方での臨床実習の時期と重なっていたため、発表の準備は大変でした。友人とデータベースの

調査を分担して行い、メールなどで連絡を取り合い、指導医の平塚智也先生には論文集めや資料の作成、発表の仕方まで指導を受けました。

東京国際フォーラムで行われた発表では、専門医の先生からたくさん質問が寄せられ、そのやりとりの過程で消化器内科の奥深さと面白さを感じました。発表は優秀演題賞を受賞しました。これについて穴戸さんは、「医学部は授業、実習、試験と時間のやりくりが苦労しますが、やりたいことがあれば、自分の限界を決めず挑戦すべきです。その時は体力的にも精神的にも辛いですが、経験は自信に繋がり、困難に遭遇した時に必ず役に立つと思います」と後輩たちにアドバイスを送ります。

#### いつか杏林大で診療を

臨床実習は、青森、長野、栃木の病院で行いました。それぞれの病院では先生に積極的に質問をしたり、興味のあることを伝えたりすることを心がけました。そうすることで、周りの人たちに徐々に受け入れてもらえ、新しい環境に慣れることができました。八戸の病院では、担当した患者さんの症例を学会で発表する機会をもらい、これが縁で卒業後はこの病院で研修を行っています。

「研修医として、まず手技や臨床の基礎を固めたい。そして、患者さんに信頼される医師を目指します。いずれは杏林大学に戻り、同期の友人と一緒に仕事ができれば嬉しいです」と夢を膨らませています。

### 憧れの英語教師への道のり



水村 宙夢 (みずむら ひろむ)

2024年3月 外国語学部英語学科卒業。4月に羽村市立羽村第二中学校に英語教諭として着任

英語教師になるという中学生の頃からの夢を実現した水村さん。中学校での教育実習では、2年生のクラスで英語を担当し、大勢の生徒に教えることの難しさと楽しさ、さらに教師という仕事のやりがいを実感したと言

います。そして、今、水村さんは「先生がいるから元気に登校しよう！」と生徒から思われる教師になりたいと願って教壇に立っています。

#### 教師への思い強めた教育実習

大学3年生の時から、将来に繋がるようにと塾講師のアルバイトをした水村さん。教え子が志望校に合格した時は喜びを分かち合い、教師への思いは強まりました。

一方、塾と違って30数人の生徒が相手の教育実習は、予想以上に難しいものでした。予め授業の内容を頭に入れ、構成を組み立て、終わったら授業を振り返って改善点を洗い出す。「物事は準備が9割」と言われるように、よりよい授業をするために事前の準備に万全を尽くしました。

そうして実習の終盤には、授業中の立ち位

置、目線、生徒への発問の仕方なども徐々につかめてきました。実習の成果を複数の先生に見てもらった研究授業では、生徒が積極的に発言してくれてテンポよく授業ができ、好評だったといいます。実習最終日に生徒からもらった色紙は大切に家に飾っています。

#### 何でも相談できる親身な大学

悩みや不安な気持ちは一人で抱えず、仲間や教職課程の先生、ゼミの先生、教務課の職員などに相談しました。多くの人から受けたアドバイスの中から、「ありのままの自分を大切にする姿勢」が教師の仕事には必要だと気付きました。この言葉を胸に臨んだ教員採用試験の面接では、面接官から「一緒に働けるのを楽しみにしている」と声を掛けられました。「教職の授業から学んだことはとても多

く、人として一回り成長できたと感じています。今は『水村先生がいるから、きょうも元気に登校しよう！』と生徒たちに言ってもらえる教師になりたいと思っています」。

#### 後輩へのアドバイス

大学時代について水村さんは、「アルバイト経験は進路の決定や社会に出てから大いに役立つと思います。将来の職業に直接繋がるような仕事でなくても、様々なアルバイトを通じて社会を知ったり、自分の向き不向きを知ったりすることができます。教職課程を履修する人は、模擬授業の機会を大切にしてください。実際に経験していない授業形式は本番ではできないので、模擬授業では取っていろいろなスタイルを試すことで自分の授業の可能性を広げてくれると思います」。

### ミクロの世界から医療を見つめる



片岡 令 (かたおか れい)

2024年3月 保健学部臨床検査技術学科卒業。4月から自治医科大学附属さいたま医療センター勤務

臨床検査技師は、血液検査の検体分析や腹部の超音波検査、顕微鏡での細胞診といった診療の支援を行います。片岡さんは、この春から埼玉の大学病院で臨床検査技師としての第一歩を踏み出しました。

#### 細胞の神秘に魅了され

看護師の母親の影響で医療職を志すようになった片岡さんは、高校生時代に臨床検査技師の仕事を知り、患者さんの検体というミクロの世界から治療を支える医療に関心を持ちました。大学入学後は、細胞診や病理学の授業で顕微鏡を覗き、マイクロメートル(=μm。1μmは1/1,000mm)単位で広がる細胞の神秘的な世界に魅了され、細胞検査士の資格も目指すことにしました。

#### 仲間と苦楽を共に 2つの資格を取得！

細胞検査士は、しこりなどの病変部の細胞を採取し、顕微鏡でがんの可能性のある異常な細胞を見極めるスペシャリストです。また、

合格率全国平均30%という難関の資格でもあります。

杏林大学では、在学中に受験資格を得られる養成課程があり、選抜試験を通過した片岡さんは、4年の時に10人の仲間と養成課程を履修しました。「細胞の鑑別は、技師のスキルにゆだねられます。基準となる正常な細胞をしっかりと頭に描きながら、異常な細胞を鑑別できるよう訓練を重ねていきます。しかし、人によって見解が異なることもあり、意見を交わしながら、スキルを磨くことが楽しかった」と話します。一方で、過密なカリキュラムとなる臨床検査技師の勉強に加え、もう1つの資格取得を目指すことは容易ではなく、「勉強量の多さに、思考が停止しそうになった」というほどハードな日々でした。それでも挫折せずにやり遂げられたのは、「親身に指導して下さった

先生と戦友のような仲間のおかげ。オンラインで励まし合ったり、食事をして気分転換したり、支え合えたことで無事合格できました」と振り返ります。

#### 細胞を見極める プロを目指して

そして、社会人となった片岡さんは今、「臨床検査と細胞検査のスキルを医療の現場で磨く一方、個人の能力によらず、誰でも精度高く細胞を鑑別できる手法を見つける研究にも取り組みたい」と夢を膨らませています。そして、後輩には「全ての学びはつながっています。難しい科目もあるかと思いますが、一つ一つを大切にしてください。4年間はあるという間です」とアドバイスを送ります。

## まちづくりの成功体験が職業選択に



小島 拓哉 (こじま たくや)

2024年3月 総合政策学部総合政策学科卒業。4月から株式会社日本旅行勤務

「大学生活は挑戦できる環境であり、充実した4年間を送れました」と話す小島さん。大学に入る前から、生まれ育った新潟の魅力が県外にあまり知られていないことに気付き、自分の力で何とかできないかと思っていました。そうした思いが募って、大学では地方の

魅力を世の中に発信したいと考え、地方創生活動に力を入れました。

そして、その活動に確かな手ごたえを感じ、選んだ就職先が総合旅行会社。大学での学びが自らの職業を決定づけました。

### まちづくりへの貢献が自信に

大学のゼミナールは、地域の活性化に関わる活動ができる三浦ゼミを選びました。そして、日本各地の魅力を東京から発信するクラフトマーケットの実行メンバーになり、自治体関係者や協賛企業と何回も会議を重ねました。マーケットの当日は、食品や工芸品など全国各地の多様な特産品をキャンパスで紹介・販売し、5,000人を超える来場者に各地の魅力を届けることができました。

第2回以降もオブザーバーとして運営マ

ニユアルのブラッシュアップに携わり、現在のクラフトマーケットの骨組みを作りました。

地方都市に約1か月間滞在し、地域が抱える課題の解決や改善に取り組むCBL(地域留学)にも参加。小島さんは、愛知県豊橋市二川町に滞在し、自分の力でまちづくりができる喜びを実体験しました。

住民への直接インタビューで、昔からの住民からは「若い人に地域のイベントに参加してもらいたい」、新しく住民になった若い人からは「まちのために何かしたいが、参加が難しい現状も分かってもらいたい」という声を聞きました。そこで小島さんは、世代間の溝を埋めることが課題解決につながると考え、古民家を活用した交流イベントを自治会長らに提案しました。提案は実行に移され、地域の人たちの手で古民家が交流の場に再生されました。その古民家では世代を超えて人々

が集うイベントが行われ、「自分が二川町の活性化に貢献できたことを誇りに思っています」と話しています。

### 大学の経験が職業選択に

こうした活動を通して、地元の新潟だけでなく、日本各地にその土地ならではの魅力があることがわかり、その魅力を全国の、そして世界中の人々に伝えたいと思うようになりました。それを実現するために選んだ就職先が総合旅行会社でした。

「後輩の皆さんに是非言いたいのは、とにかく挑戦してみることです。経験からは必ず得るものがあるので、興味を持ったことに積極的に取り組み、多くの経験を積んでほしい。それが自分のためにも人のためにも社会のためにもなると信じています」。

## 杏林大学医学部附属杉並病院 本院と連携して地域の医療を支える

2024年4月に、本学の2つ目の附属病院として杏林大学医学部附属杉並病院が開院しました。杉並病院(340床)は、杏林病院と連携しながら、地域医療に貢献する中核病院としての役割を担っていきます。開院に寄せて岸本聡子杉並区長と秋山陽子杉並病院看護部長からのメッセージを紹介します。



バスロータリー



外来ロビー(1階)



屋上庭園



東京高円寺阿波踊り

周辺  
環境



東京23区の西端に位置する杉並区。JR中央総武線、京王線、東京メトロ丸の内線が利用できる。区内には井草八幡宮、大宮八幡宮などの名所や善福寺川緑地、和田堀公園、大田黒公園など自然も豊か。東京高円寺阿波踊り、阿佐ヶ谷七夕まつりは多くの人でにぎわう。

### 区民の命と健康を支える砦に期待

杉並区長 岸本 聡子



■略歴  
国際青年環境NGO「A SEED JAPAN」、国際政策シンクタンクNGO「トランスナショナル研究所」などで活動。オランダやベルギーでの移住経験をもつ。2022年7月から杉並区長

杏林大学医学部附属杉並病院の開院にあたり、心よりお祝い申し上げます。

区内で初となる大学附属病院が誕生し、区民はより身近な地域で先進的かつ高度な医

療を受けられるようになりました。また、多くの優秀な医療人材を育成されていることから、地域における医療提供体制がさらに充実することを期待しているところです。

貴院は災害拠点病院、東京都指定二次救急医療機関等に指定され、いざというときに区民の命や健康を支える砦として尽力して下さっております。

今後とも区民が生涯にわたって健やかに暮らせる健康長寿社会の実現に向けて、杉並区とともに取り組んでいただきますよう、お願い申し上げます。

### 「この病院でよかった」と感じられる環境をつくりたい

杏林大学医学部附属杉並病院 看護部長 秋山 陽子



■略歴  
1994年 杏林大学医学部附属病院着任。2016年より佼成病院勤務。同院看護部長を経て2024年4月より現職。国際医療福祉大学大学院医療経営専攻医療経営管理分野修了。h-MBA取得

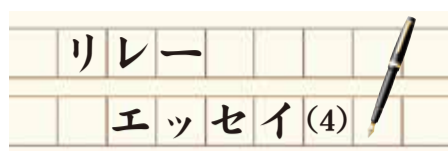
杏林大学医学部の附属病院として地域の医療にさらに貢献していきたいと考えています。

看護部には現在350人の看護職員と45人の看護補助者が所属しており、記念すべき開院

時スタッフとして誇りを持って業務に従事しています。

二次救急医療機関の役割を果たすために、様々な患者さんに幅広く対応できるように、本院と連携しながら知識やスキルの向上に努めています。また退院後の生活を見据えた看護を実践すべく、地域との関わりを密にしています。

本学の建学の理念である【真善美】の精神を大切に、患者さんとそのご家族、そして共に働くスタッフが「この病院でよかった」と感じられる環境をつくりたいと思います。



リレーエッセイでは、杏林大学の先生たちに日頃の授業では取り上げない話題や知識、見聞などを自由気ままに書き綴っていただきます。

## ChatGPTの魅力と注意点、そしてAIの進化について

最近何かと話題のChatGPTは、OpenAI社が開発したAIチャットボットです。超大規模なデータを学習し、専門的な話題から日常会話に至るまで、人間が書いたかのような自然なテキストを生成することができます。学術的な研究からビジネスのアイデア出し、プログラミング課題の解決や翻訳まで幅広く利用されるようになってきました。

しかし、ChatGPTを活用するには、いくつか注意が必要です。まず、プロンプトと呼ばれる質問や命令の入力がインターネットを介して行われるため、個人情報の漏洩のリスクがあります。また、生成された内容が著作権の問題を引き起こす可能性があります。さらに、ハルシネーションと呼ばれる事実に基づかない情報を生成する現象を引き起こすことがあります。そのため別の信頼できるソースで必ず事実関係をチェックする必要があります。また、教育の文脈では、ChatGPTを用いることで学生が自身の文書作成能力や論理的思考力を低下させる可能性があります。

便利さの裏で、自ら考え表現する力の育成がおろそかにならないように気を付けなければいけません。

ChatGPTは、入力テキストに出現する単語の系列に対して、統計的によく現れる単語を出力しているにすぎません。それにもかかわらず、私はChatGPTに知性を感じます。近年モデルのパラメータ数と学習データ数が一定以上の量を超えると急激にAIの性能が向上する現象が報告されており、大規模言語モデルの創発現象として注目され始めました。なぜ学習データが一定レベルを超えるとAIが急に賢くなるのか、専門家も今のところ適当な答えを持ち合わせていません。私は「知の相転移」と言っても良いこの現象が知の構造を科学的に解き明かす大きな手掛かりになるのではないかと考えています。AIの性能が人類の知能を上回るシンギュラリティーの到来は2045年であると言われていますが、実際はそこまで時間はかからないのかも知れません。



データサイエンス教育研究センター長・教授  
坪下 幸寛 (つぼした ゆきひろ)

京都大学工学部精密工学科 卒業、東京大学新領域創成科学研究科複雑理工学専攻博士課程修了。富士フイルムホールディングスの人工知能基礎研究所、富士フイルム(株)画像技術センターなどを経て、2021年4月杏林大学着任。研究テーマ・分野は機械学習、深層学習、画像認識

## 健康ひとくちメモ ③

### 薬物乱用の怖さ



#### 若者に広がる薬物問題

薬(クスリ)をうしろ(逆)から読むとリスク(危険)になります。薬は決められた量や回数を超えて内服すると危険を伴います。覚醒剤、麻薬、大麻などは法律で規制された危険な薬物ですが、昨年話題になった「大麻グミ」も所持や使用が禁止されている指定薬物です。

注目すべき点は、大麻の検挙数の4分の3が10~20代であること、薬物依存症患者に占める市販薬の過剰摂取(オーバードーズ:OD)の割合が若者に増えていることです。

#### オーバードーズの危険性

鎮咳薬や鎮痛薬などの市販薬を一度に多量に服用して快楽や陶酔感を求めるODのことを若者の間では「パキる」と呼び、社会問題になっています。市販薬は容易に入手でき、違法薬物でないため罪悪感がなく、乱用につながります。市販薬の中にも覚醒剤や麻薬のような作用を生む成分が含まれるものがあり、用法・用量を守らないと薬依存症、肝障害、最悪の場合、死に至ることもあります。快楽を優先すると危険性には盲目になってしまいます。特に若者のODは生命の危険だけでなく、依存により人生を棒に振ってしまうことを再認識する必要があります。

#### ODの背景

危険を冒してまでなぜ若者はODをしてしまうのか。そこには、家庭や学校での不満やプレッシャー、コロナ禍による孤立など深刻な問題が潜んでいることも多く、現実逃避や気持ちを和らげるために薬物に頼ってしまうと考えられます。また、市販薬をネットで購入できたり、SNSなどでODの仕方や市販薬に関する情報を容易に入手できたりする環境も背景にあります。

#### 一人で抱え込まず相談を

薬物の問題に悩んだら、まずは専門家のアドバイスを受けることが大事です。保健センターでも適切な相談窓口を紹介しています。



医学部予防医学教室・教授/大学保健センター長  
徳永 健吾 (とくなが けんご)

杏林大学医学部卒業。杏林大学第三内科(消化器内科)を経て、2021年同大学医学部付属病院予防医学センター長。専門は予防医学、消化器病学、ピロリ感染症

## 硬式野球部

### 溝口監督の新体制がスタート



溝口智成(みぞぐちともなり)立教大学卒業。東京六大学野球リーグで一塁手として活躍し、1990年秋の優勝に貢献。大学卒業後、社会人野球でプレーし、立教大学監督時代の2017年に全日本大学野球選手権を制覇。2024年1月、杏林大学硬式野球部監督に就任

今年1月、硬式野球部に溝口智成監督が就任。東京新大学野球連盟2024年春季1部リーグでは、第1戦で昨秋のリーグ戦を制した創価大学に勝ち、初陣を飾りました。共栄大学との最終戦を終え、勝ち点3の7勝4敗(勝率0.636)、リーグ3位でした。

溝口監督は、「実力あるチームがひしめくリーグで最後まで優勝目指して闘ったことや敗れた悔しさは今後の糧になります。まずは力や技術、経験の差を埋めていくために、左右のエースに続く投手陣の整備、個々のレベルアップを図る反復練習、本気で投げる・打つことを意識した実践練習を継続します。

部員には、大学生としての自覚を持って生活すること、大学の強化指定クラブとして真摯に練習に臨むこと、ここぞという時に実力以上の力を発揮できる一体感のあるチームを作ろうと言い続けています。秋リーグはどのチームも戦い方を変えてくるので同じ戦法は通用しない。本学も一つ一つ課題を克服して、挑戦者として向かっていきたい」と話しました。

## 男子バスケットボール部

### 春季3部での戦いを終えて 監督 金田 伸夫

私たちは、大学の支援と選手の頑張りにより、関東大学バスケットボール連盟史上最速で3部に昇格しました。その3部で迎えた第73回関東大学バスケットボール選手権大会(4/13~5/5)は、ベスト32決めで3部の強豪明治学院大学に逆転負けを喫してしまいました。

3部には日本一を狙っているチームが多数あり、秋のリーグ戦もかなりの困難が待ち受けています。2部昇格に10年、1部昇格には20年以上かかると言われていますが、大学の声援を武器に、1年でも早く2部、1部、そして日本一になりたいと思っています。

私たちは、「日本一運動量が多い」と言われている激しい攻防を武器に戦っています。誰が見ても面白い戦い方ですので、ぜひ応援に来てください。



## 本学がクラウドファンディングを開始



杏林大学クラウドファンディング特設ページ



本学CFの詳細はこちらをご覧ください

クラウドファンディング(CF)はインターネットを通じて事業内容を公開し、賛同を得た不特定多数の人々から支援金を募る仕組みです。近年、各国の大学がこれを活用して教育研究費や体育会系クラブの活動費などを調達するケースが増えており、本学も今年度からこの試みをスタートさせることになりました。本学のCFは研究活動を通じて社会貢献に資することを目的として行われます。

本学の第一回目となるプロジェクトは医学部の「杏林大学ファージ研究チーム」が申請した「多剤耐性菌感染症に対する新規治療法の開発」をテーマにしたもので、今年の6~7月の募集期間で500万円の資金調達を目指します。運営会社は大学のCFで定評のあるREADYFOR株式会社で、これまでに医科大学のドクターカーのリニューアルで1,215万円の目標を達成するなど多数の成功事例が報告されています。

CFは本学の教育研究を費用面から支えるだけでなく、研究者の努力や成果を広く社会にアピールするメディアの機能も併せ持っています。本学の活動に多くの支援者が集うよう、ご協力をお願いします。

#### 編集を終えて

今号から編集長を拝命しました。よろしくお願いたします。採用市場は全般的に「売り手市場」と言われており、文系学部の就職活動にも一時ほどの困難さは見られません。ただ、社会に出る「第一歩」の選択はその後に大きく影響するため、悔いが残らぬよう大学としてサポートしていければと思います。(編集長)

コロナ禍で大学時代を過ごした2024年春の卒業生を「24卒」と言うそうです。この24卒、オンラインの良さを知り、ITリテラシーが高いだけでなく、オンラインの限界を知り、対面の重要性も心得ているそうです。彼らの上司になった皆さん、24卒から「それ、オンラインでよくないですか?」「それ、オンラインじゃうまく行きませんか?」などと言われたいよう、彼らの持ち味を生かしてご指導下さい!!(広報室長)

杏林大学新聞 編集長 古本泰之(学生支援センター長) / 広報室  
TEL.0422-44-0611 E-mail koho@ks.kyorin-u.ac.jp URL https://www.kyorin-u.ac.jp/